

「問う力の育成」と 「複数性が活きる学び」を目指して

紹介動画



本校のカリキュラム・マネジメント

使命 理論的・実証的研究、教育実習

校訓 自主自律

地球サイズの教育

目標 異才の育成

生徒個人：異才に気づくこと・磨くこと
学校：複数性（Plurality）の実現



【カリキュラムのコア】

異才の育成のために育成したい資質

①Agency（主体性）

外部の期待や報酬に依存せず、自己の信念を見出し、それに従って行動する力。自己の信念や目標に忠実に生きる姿勢。

②Creativity（創造性）

既存の枠組みを打破し、新しい価値を生み出す力。自分の考えを表出し、議論を生み出す姿勢。リスクを許容しながら挑戦しようとする姿勢。

③Curiosity（探究心）

表面的な理解を超えて、物事の本質に対する鋭い洞察を持ち、深く掘り下げる力。既存の枠組みを超えて真理を追求しようとする姿勢。

④Plurality（複数性の実現・異質を受け入れる心）

自由な発言環境の中で個性を発揮し、他者の異才を認め合う文化を醸成します。

Values（価値）

- ・ Altruism（利他主義に向かって）
- ・ Civility（丁寧に）
- ・ Enterprise（冒険的に）
- ・ Resilience（しなやかに）

Philosophy（哲学）

- ・ 誇りをもって貢献する
- ・ Serve with honour

問う力の育成
複数性の実現

STEAM 教育

- ① 探究ゼミ
- ② 各教科における「パフォーマンス課題」の充実
- ③ 「文系探究」、「理系探究」の授業開発
- ④ 「探究基礎」の授業開発
- ⑤ 学際的な高大接続のコンソーシアム事業

WWL 北陸コンソーシアム事業

グローバル教育

- ① NJC との協働探究プログラム
- ② NJC との国際交流プログラム

学校目標

(1) 本校は、金沢大学人間社会学域学校教育学類の附属高校として、「教育基本法」「学校教育法」に基づき、高校普通教育を行うとともに、高等学校教育の理論的・実証的研究、教育実習などを行う。

(2) 本校は、「自主自律」の校訓の下、「地球サイズの教育」を行い、国際社会の創造に主体的に貢献できるグローバルな人材を育てる。

異才の育成

異才とは、特化した長所や偏った能力を持ち、発想力、探究心、実行力に優れ、批判的視点からものごとを捉え、独自のセンスを発揮できる人材のことです。本校では、答えを提示しすぎず、生徒自身の意欲から生まれる活動を尊重し、互いの違いを認め合いながら、それぞれの「異才」が輝ける教育を実践していきます。

次期学習指導要領に向けて

個別最適な学び

指導の個別化 / 学習の個性化

新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により「個に応じた指導」の充実を図ることが必要とされます。

協働的な学び

個性を生かし、異なる考えを尊重

探究的な学習を通じ多様な他者と協働し、他者を価値ある存在として尊重しながら必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要とされます。そのような高校教育全体の大きな変化の中で、本校が考えていくべき課題は何でしょうか。本校の研究の取り組みを整理し、「異才の育成」という学校目標の具体化と、本校で歴史的に長らく使用されてきた「地球サイズの教育」という学校目標の具体化を試みます。

地球サイズの教育

地球サイズの教育とは、本校の STEAM 教育とグローバル教育によって構成される独自のカリキュラムと言えます。文部科学省の方針（日本の教育研究課題）という「外」と、生徒や教員が日々取り組んでいる教育現場という「内」を接続して、新しい実践と公開を繰り返していくことが研究校としての我が校の使命であると考えています。その意味で STEAM 教育を推進し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています。

地球サイズの教育のエレメント

（本校の学校目標に沿う）

1. 探究的な教育
2. 本校にしかない特徴的な教育（地球規模の）
3. 国際的な教育（国を超えて）
4. 学際的な教育（分野を超えて）
5. 最先端の教育（時代に対応して）



地球サイズの教育の具体例

探究ゼミ

各教科における「パフォーマンス課題」の充実

「文系探究」、「理系探究」の授業開発

「探究基礎」の授業開発

学際的な高大接続のコンソーシアム事業

文部科学省によると STEAM 教育には以下のような要素が含まれます。

- ① 試行錯誤しながら新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を育成すること
- ② 各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、文理の枠を超えて、実社会の課題を取り扱う探究的な学習活動の充実を目指すこと
- ③ 理学、工学、芸術、人文、社会科学等を横断した学際的なアプローチで実社会の問題を発見し解決策を考えること

本校ではこれらの要素を踏まえた5つの取り組みを行っています。

探究ゼミ



本校では総合的探究の時間として「探究ゼミ」を展開しています。探究ゼミでは日常生活や社会に関する疑問や興味をもとに、自ら課題を見つけることから始めます。その課題の中にある具体的な問題について情報を収集し、整理・分析したり、知識や技能と結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組みます。そして、明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、更なる問題の解決を目指します。これは、物事の本質を自己との関わりで探り見極めようとする一連の知的営みと言えます。

【主なゼミ事例】

- ・文学ゼミ・教育ゼミ・歴史学ゼミ・現代アートゼミ・社会学ゼミ・実験体験数学ゼミ・「人と数学」ゼミ・計算科学ゼミ
- ・言語探究ゼミ・英語探究ゼミ・数学作問ゼミ・学校生活探究ゼミ・サイエンスゼミ・生物・農学ゼミ・自由探究ゼミ
- ・スポーツゼミ・医学部探求ゼミ・N組



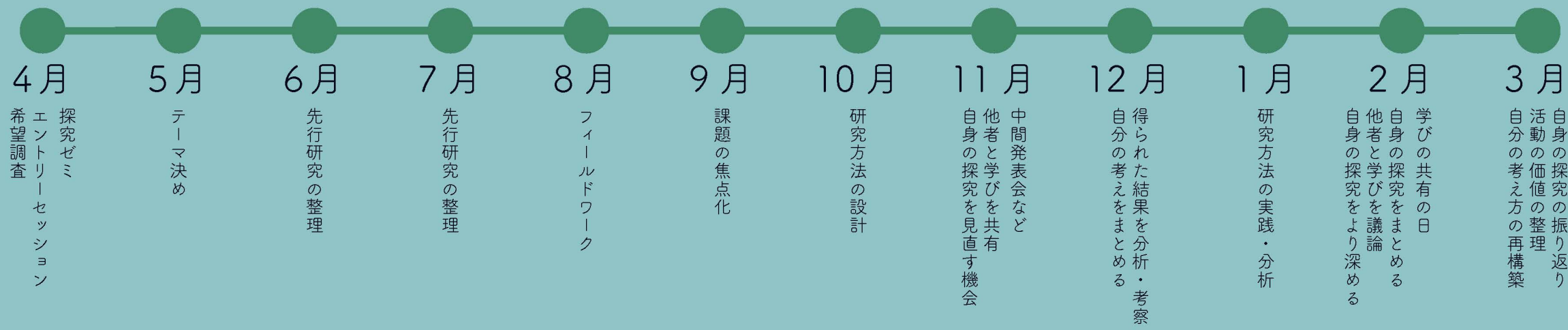
学びの共有の日

(金沢大学附属高校探究成果発表会)

「学びの共有の日」は、生徒が総合的な探究の時間などで進めてきた学びの成果を発表する取り組みです。ポスター、スライド、作品など様々な手法で発表が行われます。



主な年間スケジュール



①課題の設定

②情報の収集

③整理・分析

④まとめ・発表



WWL 北陸コンソーシアム事業

将来、世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成するため、これまでのスーパーグローバルハイスクール事業の取組の実績等、グローバル人材育成に向けた教育資源を活用し、高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取り組みとするための体制整備を行う取り組みです。同時に、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組み（A-Lネットワーク）の形成を目指します。

北陸圏域の高校との連携

石川県立金沢泉丘高校、金沢二水高校、七尾高校、小松高校
福井県立高志高校、富山県立高岡高校

全国の高校との連携

仙台二華、東京学芸大学附属高校

海外の高校との連携

シンガポールの National Junior College(NJC)

地域企業との連携

三谷産業、アパナード、平和町商店街
国連大学サステイナビリティ高等研究所 いしかわ など

ミライシコウ金沢

【高校生探究成果発表会】

県内外の高校生が金沢に集い、互いの研究成果を共有するとともに、国際社会が直面する課題について理解を深め、解決策を提案します。また、大学と高校の教員が協力して、探究活動による創造的能力の向上について考えます。



形式・1発表15分

発表形式はポスターまたはパワーポイント

探究奨励賞・各分科会ごとに探究奨励賞を準備

【分科会】

1. 人文科学（文化・芸能・歴史）
2. 生活（家庭・衣食住・経済）
3. 地域課題・観光
4. 教育
5. 国際（使用言語は英語のみ）
6. 保健・多様性・共生
7. 環境・防災
8. 化学・生物
9. 物理・ものづくり
10. 数学・情報



金沢大学との連携

金沢大学とともに北陸の高大接続展開の軸を形成し事業を展開しています。

- ・高校生先取り履修
- ・大学生との連携
- ・ミライソウゾウコンテスト
- ・がん研体験プログラム
- ・ミライシコウ金沢 etc



【高校生国際会議】

気候変動は、私たちの未来にとって最も重要な課題の一つであり、特に若者がその解決に向けて主導的な役割を果たすことが求められます。このイベントを通じて、参加者はグローバルな視点から環境問題を学び、同時に地域における実践的な解決策に焦点を当て、具体的なアクションに繋げる第一歩が生まれていくことを目指します。



シンガポール × 日本
NJC との協働探究・国際交流プログラム